

- 1 [一流企業TOPインタビュー]
株式会社丹青社
- 2 [みなとく名店]
諸国地酒銘酒処 芝の浦
- [未来に託す技巧]
株式会社J-STORIA

TOP INTERVIEW

株式会社丹青社

代表取締役社長 **高橋 貴志 氏**



本社のレセプションエリア

戦後の活気あふれる上野で百貨店の店内装飾から事業を立ち上げ、1970年の大阪万博を機に多彩な空間づくりに取り組んできた丹青社。現在は商業空間や文化空間、ビジネス空間など年間約6千件ものプロジェクトを手掛け、デジタル技術を駆使した空間づくりなど、新たな取り組みにも挑んでいます。2015年9月に港区芝浦南地区に本社を移転。さらなる飛躍を目指す同社のこれまでの歩みと今後の展望について、高橋貴志社長にうかがいました。



空間づくりのプロフェッショナルとして 豊かな社会と生活の実現に貢献する

丹青社は今年で創業75年目。商業施設や公共施設、ビジネス、そして文化やイベントなどさまざまな空間づくりを担い、国内屈指の企業へと大きく成長してきました。ハード&ソフトを含め「空間創造のプロフェッショナル」を標榜する同社の原点は、「社名そのものにある」と高橋社長は語ります。

「丹青は色彩や絵画・創造性を意味し、同時に『丹精を込める』にも通じます。創業から多くの顧客に恵まれ、その要望に丹精込めて応えることで共に歩んできました。あえて領域を定めなかったことで多様な経験が得られ、それらを融合することが、新たな価値を生み出すという好循環につながっているのだと思います」

ニーズの多様化・複雑化に 柔軟な課題解決力に対応

現在は商業空間、文化空間、そしてイベント空間が主な事業領域ですが、顧客ニーズは時代とともに大きく変化しています。例えば、商業・公共施設などは従来の目的に加え、地域と連携した「社会交流空間」としての役割が求められる、提供価値の多様化・高度化が進んでいます。文化施設についても、単なる展示から、地域・建物のもつ歴史や文化など“古き良きもの”を活かして次世代に引き継ぐことが求められています。2018年に手掛けた「港区立郷土歴史館」もそうした要請を受けた案件の一つ。建築家・内田祥三氏設計

で1938年竣工の旧公衆衛生院の建物を、耐震補強やバリアフリー化などの改修工事と連動して展示空間にリノベーション。「第53回日本サインデザイン賞」の関東地区賞を受賞しました。

「どの案件でも、求められる複合的な機能や価値を理解し、エンドユーザーの利便性や思いも含め、技術面、デザイン面でしっかりと具現化したことが評価されていると思います。いわば『空間創造による課題解決力』こそ、同社の強みであると自負しています」

リアルとバーチャルが融合する 新しい時代の空間づくりへ

近年は、VR/AR、映像・音響技術など最新テクノロジーを組み合わせたリアルとバーチャルそれぞれの特性を踏まえた空間づくりや、ブロックチェーンなどICT・デジタル技術を駆使したアートのオンラインマーケット「B-OWND」にも挑戦。

「インターネットや仮想現実が日常となりつつある今、人にとっての“空間”も物理的なものだけでは語れなくなっています。リアルとバーチャルが融合する時代に、新しい空間づくりで新しい価値創出を担うためにも、私たちも新たな挑戦をしていかなければならないと考えています」

そうした先駆的な取り組みを推進する専門部署としてCMIセンターを配置し、さらに先端的技術・コンテンツをもつ企業やクリエイターと連携して空間

演出技術に応用した研究・実証・協働を進めるために、2018年に「港南ラボ マークスリー[Mk_3]」を設立しました。

「変化の激しい時代には、自社のコアを大切にしながらも自前主義から脱却し、さまざまな方々とオープンに協力しながら社会課題の解決を目指す必要があります。自社に場をつくるだけでなく、例えば、異なる分野の企業と協創する『point0』への参画など、多様な方法でオープンイノベーションを進めています」

不夜城からゲートウェイへ 多様性の中から未来を拓く

時代に即した変化は、社員の働き方やコミュニケーションなどにも及び、特に2015年の港区への本社移転は大きな契機となりました。

「以前は事業部ごと、二つの建物で17フロアに分かれており、“上野の不夜城”といわれるほどのハードワークでございました。しかし、ワンフロアとなる新本社への移転を機に働き方改革を推進し、生産性とクリエイティビティの向上に取り組みました。固定席をもたないフリーアドレス制により、社員同士の知見や経験が自然と共有されるようになり、既存の常識や慣習を超えた新しい発想が次々と生まれるようになりました」

また、テレワーク制度による在宅勤務にも挑戦していたところに、コロナ禍によって一気にリモートワークにシフト。新たなコミュニケーションの強化や働き方の多様化がさらに促進しました。一方、以前から空間創出の観点でユニバーサルデザインや生活者視点を意識し、「ユニバーサルキャン

TOKYO」への参画やNPOとの連携など、ノーマライゼーションやダイバーシティに積極的に取り組んできたことも、多様な価値観の醸成につながっています。

「『未来創造ゲートウェイ』をコンセプトとして掲げ、勢いのある企業が集まる“東京の玄関口”であるこの地に移転したからには、多くの方々と交流して大いに刺激を受けたいですね。新しい時代の風を感じながら、これまでどおり丹精こめる気持ちは変わることなく、『ここを動かす空間づくり』に真摯に取り組んでいきたいと考えています」

港区での取り組み事例(2020年)



Honda ウェルカムプラザ青山



高輪ゲートウェイ駅前特設会場 ホール A
Takanawa Gateway Fest
「A DAY 〜ちょっとミライのつながるセカイ〜」



株式会社丹青社
住所:港区港南1-2-70
品川シーズンテラス19階
電話:03-6455-8100(代表)
<https://www.tanseisha.co.jp>



同社が手がけた「港区立郷土歴史館」。歴史的建築物のため、建築の保存に努めつつ、小部屋が続く構造を活かす展示など、さまざまな工夫がなされている

諸国地酒銘酒処
芝の浦



おの たけし
店主 **大野 岳史 氏**

芝 浦に根を下ろして53年目、2代目店主・大野岳史氏が切り盛りする店には、酒好き垂涎ものの地酒・銘酒がずらり。時期によっては季節限定酒や蔵出し直送の無濾過生酒など、希少なお酒に出合えることもあります。

「切れ味すっきりタイプのお酒をメインにそろえています。それ以外にも日本には個性豊かでおいしいお

店主自ら厳選した各地の銘酒が自慢
四季折々の美味とともに愉しんで



落ち着いた雰囲気がたどよう店内。さりげなく新型コロナウイルス感染症対策も行われている



酒の肴に合う料理も充実。特に旬のお魚を使った料理は絶品。ランチメニューも充実

酒がたくさんあります。全国を旅するように気軽にお酒を愉しんでほしいですね」

流行は追わず、自ら選んで酒を仕入れるために、忙しい中でも各地の蔵元を訪ね、造り手と交流しながら造り方や呑み方で深く理解することを大事にしています。杜氏や蔵人に混じって早朝からの仕込みに参加することもあったそう。

「日本酒は食中酒なので、おいしい肴と酌み交わす人とのふれあいがあってこそ。時代が変わっても、店のぬくもりは大切にしたいですね」

と、ちょうど取材中に蔵元からの届け物が。開いてみると立派な里芋! 「こんなことも積年の関係があってのこと。早速、衣かつぎで出そうかな」

飲食業に試練の時も、
店にも心にも灯をともし続ける

芝の浦はもともと岳史氏の父・家俊氏が福岡から上京して開いた店。誠実な人柄で地域の信頼も厚く、地元出身者以外で初の芝浦商店会長になりました。昨年には岳史氏も会長になりました。親子二代で会長経験者は珍しいとか。

「父の時代から地域に溶け込み、協力し合うことで、今日までやってこられました。今、飲食は試練の時ですが、だからこそ店主が元気を出さなくては。サービスの最前線にいる自覚をもって地域を盛り上げ、来てくださる方を元気づけられる店でありたいですね」



定番から希少種まで、日本酒の品揃えは随一。また、店名を冠したオリジナルラベルの地酒「芝の浦」として、特別本醸造「麒麟」(新潟・下越酒造)、大吟醸「秀よし」(秋田・鈴木酒造店)の2種類がラインナップされている



店主のライフワークともいえる「蔵元体験」。



なんだかホッとする店構えに思わず「たたいま」

田舎家風の店内は居心地よく整い、店主自ら生けた季節の花からも、老舗の意気込みが伝わってきました。

● お問い合わせ ●

住所：港区芝浦 3-14-4 さくらビル1F
電話：03-3769-2038
<http://shibanoura.com/>

未来に
託す **技巧**

株式会社 J・STORIA



ふたがみ たつひろ
代表取締役 **二上 達裕 氏**

ス マートフォンに装着するだけで、美顔器に早変わり。株式会社J・STORIAが開発した「NOFL Smart」は、可視光通信で専用のスマホアプリと連動し、低周波の微弱電流で顔の表情筋を刺激するという仕組みです。

開発者であり同社の代表取締役を務める二上達裕氏は、1980年代から米国でグラフィックデザイナーとして活躍。そして、マサチューセッツ工科大学出身の技術者とともに美容機器

スマホ制御の美顔器を開発
テクノロジーで美と健康に貢献する

の販促や開発に携わるうちに、美顔器開発に必要な技術を身につけました。帰国後にサロン向けの美容機器メーカーを立ち上げ、ノウハウを活かして個人向けに「NOFL Smart」を開発。2018年7月に同社を設立しました。

「スマートフォンに制御機能を代替させることで価格を抑え、アプリでコース設定や時間、強弱などの調整をできるようにしました。2021年春には、水分センサーや拡大鏡を装着して肌データを取得する機能を追加予定です」

今後は、スマートフォンと連動している利点を活かし、クラウド上で居住地区や天気などのデータと個人の肌データをAI分析して最適なコースをレコメンドするなど、IoT美顔器とし



「NOFL Smart」をスマートフォンに取り付けたところ。クリップ式なので、さまざまな機種に装着可能

て進化させることを考えています。また、肌データを匿名のビッグデータとして、新製品開発などに利用したい化粧品会社や研究機関などに販売することも構想しています。

生体データをスマホで取得
異常検知で健康を守る

そしてもう一つ、同社は2021年に新製品の発表を予定しています。脈拍や血圧・血糖値などの生体データを取得するセンサーを搭載した”スマートフォンの落下防止リング”型デバイスで、異常を検知するとスマートフォンにアラートが届くというもの。アプリの操作なしでデータをクラウドに送信できるため、日々の生活の中で意識せずとも健康管理ができるようになります(特許取得済)。

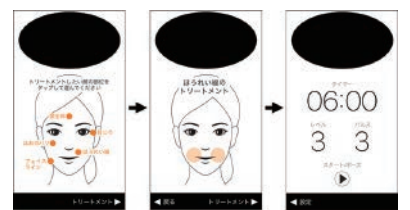
「時計型のウェアラブルデバイスが多数登場していますが、期待される普及率は2割程度といわれています。しかし、スマホなら必ず1日に何度も触ると考え、このアイデアが生まれました。今後は個人利用のほか、医療

スマホがグリップ代わりになり、使いやすさにも配慮している



機関や見守りサービスなどとの連携も視野に入れて、ビジネススキームを構築していきたいと考えています」

テクノロジーを通じて、より多くの人の美容と健康管理に貢献できるよう、積極的に他業種との協業にも取り組んでいます。



スマートフォンの操作画面。実はとてもシンプルなテクノロジーが用いられています

● お問い合わせ ●

住所：港区南青山 2-4-15
電話：03-6804-3110
<https://jstoria.co.jp/>